

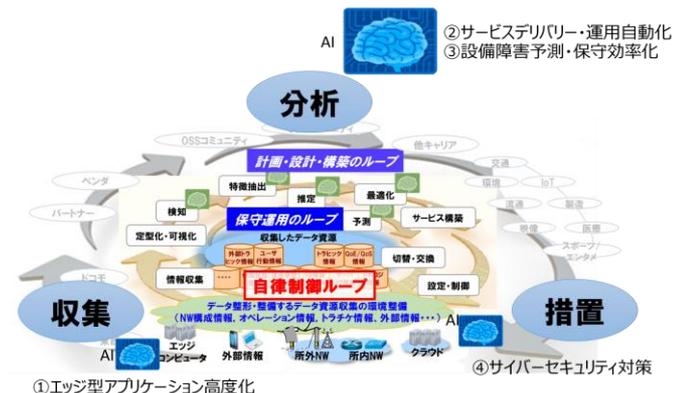
# 中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

AI活用専門委員会

1/3

<p>企画戦略委員</p>	<p>石岡 譲 (富士通) 樽谷 克彦 (日立製作所)</p>	<p>登録委員数</p>	<p>24委員 (12会員)</p>
<p>正副委員長 リーダー・サブ</p>	<p>委員長：宮澤 雅典 (KDDI) 副委員長：西松 研 (NTT)</p>	<p>図解</p>	
<p>活動の目的・意義</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>次世代サービス基盤に関わる各種局面において、AI活用により基盤の高度化が見込まれる分野から、技術ドキュメントなどの会員企業の協働作業により、各テーマの具体化と検討を行う。</li> <li>AI活用を推進することで、世界中の知見収集と情報発信により、会員の新たなサービス創出や最先端ビジネス環境の構築促進につなげる。</li> </ul>		
<p>活動する上での課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査対象ユースケースの広がり不足</li> <li>課題抽出、アーキテクチャへの検討深度の向上</li> </ul>		
<p>関連のSDGsゴール</p>			
<p>標準化方針</p>	<p>(1)設置時の4検討対象テーマについての検討を継続。①エッジ型アプリケーション高度化、②サービスデリバリー・運用自動化、③設備障害予測・保守効率化、④サイバーセキュリティ対策</p> <p>(2)ユースケース調査、具体課題の設定と調査に注力し、その結果をベースにその後のWork Item、成果物、関連専門委員会との連携に努める。</p> <p>(3)AI適用時の品質・信頼性・説明責任について、委員会活動テーマの範囲において、あるべき姿の検討を行う。</p> <p>(4) 成果物は、標準を含め、会員の事業に寄与するものとし、あらゆる知見、発見、情報の包含を考慮する。</p>		
<p>国内外 標準化団体動向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>IEEE：AI Global Initiative for Ethical Considerations in AI and ASで論点整理。Ethically Aligned Design(EAD)ver.2発行。</li> <li>ITU-T SG16:健康・マルチメディア関連 FG-AI4H(2018/7月)             <ul style="list-style-type: none"> <li>SG5：AI及び新技術による環境効率 FG-AI4EE(2019/5月)</li> <li>SG16：自動運転支援の評価 FG-AI4AD(2019/10月)</li> <li>SG16：車両のマルチメディア化 FG-VM(2018/6月)</li> <li>SG13：自律型NW FG-AN(2020/12月)</li> </ul> </li> <li>ISO/IEC JTC1:SC42設立(2017/10)。国内審議:情報規格調査会</li> <li>ETSI：ENI(Experiential Networked Intelligence:2017/2月)             <ul style="list-style-type: none"> <li>ZSM(Zero touch network and Service Management:2017/12)</li> </ul> </li> <li>TM Forum：顧客体験、サービス、網の各管理へのAI応用のPoC等。</li> <li>OSS系：ONAP、Acumos、TIP(Telecom Infra Project)等。</li> </ul>		



AI実装位置例

重点取り組みと成果	<p>工場での稼働管理・予兆管理、店舗等での映像認識等、委員会メンバーが興味を有するテーマ提案を募集し、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① AI適用事例調査/抽出しAI適用事例から、テーマ関わるユースケースを推測</li> <li>② ユースケース集を作成</li> <li>③ 専門委員会で報告すると共に、過不足を皆で議論</li> </ol> <p>その際に、調査した事例をベースに、下記、検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何ができて、何が出来ないか</li> <li>・自分達に応用するにはどうするか</li> <li>・できないことをできるようにするには、何を足せばいいか</li> <li>・各SDOでの検討状況に関わる情報の共有を行う。</li> </ul>
-----------	---

関連する専門委員会とその内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 信号制御、Network Vision、移動通信網マネジメント、IoTエリアネットワーク専門委員会（2030年を見据えた将来網検討）</li> <li>・ コネクテッドカー専門委員会との情報共有：11月</li> </ul>
----------------	---

主な活動項目	概況指標	2021年度目標（当初計画時）	2021年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	0件	
	外部会合への 参加・連携状況	必要に応じて	未実施	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）	0件	
	TS/TR/SR	0件/1件/0件（予定しない）	TR：1件 TR-1091：AI活用における品質・信頼性・説明責任に関する事例調査（5月） 調査対象：通信設備、自動運転、電力設備	
③ ダウンストリーム	数	-（予定しない）	0件	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	AI活用に関するセミナーまたは、ワークショップの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI活用における品質・信頼性・説明責任に関する事例調査：7月</li> <li>・AIに関する標準化活動の現状と今後の展開（IPSCJ、ITSCJ、TTC共催）：22年2月予定</li> </ul>	
	記事投稿、講演会	必要により検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子情報通信学会 ソサエティ大会：9月</li> </ul>	

新テーマ及び重点取り組み	<p>全体的網羅性確保を目指し、5G等通信を利用した様々なAI適用シナリオを調査し、シナリオ別のAI適用リスクの洗出と、その低減策の検討を行い、AI適用の心理的なハードルを下げ、AI適用の普及促進に資することを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• TTCの関心分野/サービスを中心に、AIを適用したユースケース（シナリオ）調査を行う</li> <li>• AIのArchitectureや構成の推定</li> <li>• 調査を行ったシナリオ毎に、シナリオ固有リスクの分析</li> </ul> <p>を、軸とした活動を行うことで、リスクの低減や説明責任ポイントの明確化に向けた検討を行う。 調査/検討結果は、新規TRとして取り纏め、制定を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 各SDOでの検討状況に関わる情報の共有を行う。</li> </ul>			
関連する専門委員会または外部組織とその内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 信号制御、Network Vision、移動通信網マネジメント、IoTエリアネットワークの各専門委員会（2030年を見据えた将来網検討）IoTエリアネットワーク専門委員会でのユースケース検討結果を踏まえたWI検討</li> <li>• コネクテッドカー専門委員会（特に、FG AI4AD関連）</li> </ul>			
主な活動項目	概況指標	2022年度目標（当初計画時）	2022年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	-	-	
	外部会合への参加・連携状況	必要に応じて		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準	0件（予定しない）		
	TS/TR/SR	0件/1件/0件		
③ ダウンストリーム	数	-（予定しない）		
④ プロモーション 普及推進	セミナー	AI活用に関するセミナーの開催		
	記事投稿、講演会	必要により検討		